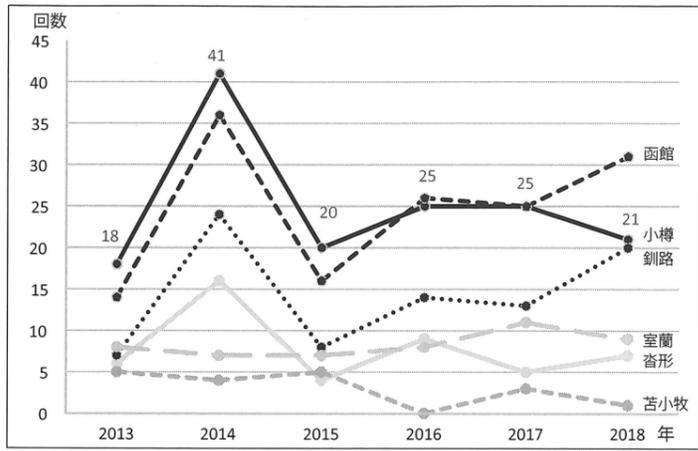


寄港回数が増加傾向にあります。その後、外国船による北海道周遊クルーズの定番化につながっています。

(図3)

最近では、外国船による環日本海クルーズの実施にともない、太平洋と日本海をつなぐ好立地にある函館港への寄港が増加傾向にあります。

全国をみると、2017年、最も寄港数が多いのは博多港の326回、次いで長崎港の267回、那覇港の224回となっています。(図4)



【図3】道内主要港のクルーズ船寄港回数 (2018年は予定数)

順位	港湾名(都道府県)	寄港回数
1	博多(福岡県)	326
2	長崎(長崎県)	287
3	那覇港(沖縄県)	224
4	横浜(神奈川県)	178
5	石垣港(沖縄県)	132
6	平良港(沖縄県)	130
7	神戸港(兵庫県)	116
8	鹿児島(鹿児島県)	108
9	佐世保(長崎県)	84
10	八代(熊本県)	66

【図4】2017年クルーズ船寄港回数全国上位10港

競争が激化するクルーズ船誘致

クルーズ船を誘致しようという動きは小樽だけではなく、函館では、かつて青函連絡船が発着し、朝市やベイエリアにも徒歩圏内に位置する函館駅裏の若松ふ頭に、12万トン級の大型クルーズ船が着岸できる岸壁の整備を進めているほか、姫路港では、クルーズ船誘致の最大のセーリングポイントである世界文化遺産の姫路城に、最も人気が高い花見時期の大混雑を避けるため、一般開門より早く乗船客を入場させる特別優遇を実施したことで、クルーズ船誘致に成功しました。

また、熱海港では、小型のクルーズ船に特化し、高級な外航クルーズ船の誘致や世界の富裕層を乗せたスーパーヨットの係留施設の整備を目指すなど、全国各港で施設整備や誘致活動が展開されて

おり、クルーズ船誘致競争が激化しています。

クルーズ船が地域にもたらす効果

クルーズ船の寄港で小樽にどのような効果があるのでしょうか。

小樽市産業港湾部港湾室によると、昨年のクルーズ船寄港数は25回(うち日本船10回、外国船15回)で、乗客約28,000人、乗組員約12,700人が乗降しています。小樽市には、クルーズ船の寄港による入港料や係留施設料といった使用料収入が昨年度は約2,600万円ありました。これは全船舶による収入の約9%にあたります。(図5)

2016年、2015年の調査では、10万トン級の大規模外国客船寄港時、1回の寄港で18〜30便の臨時シャトルバス、250台以上のタクシー(往路のみカウント)、13〜18台の人力車利用があり、多くのバスやタクシーが利用されていることがわかります。

また、クルーズ船の大小にかかわらず、寄港時には様々な「寄港地ツアー」が実施されています。市内散策や余市等、いずれも小樽や北後志を巡る4つのツアーが実施されたケースでは、290人が参加し、大

型外国船のケースでは、840名参加のうち72%が小樽を含む北後志のツアーを楽しんでいます。このように、クルーズ船は、寄港地に様々な経済的な効果を生み出し、何より、寄港によって小樽の魅力の世界中の人達に発信するきっかけとなっています。

入港料	約270万円
係留施設料	約1,330万円
船舶給水	約350万円
ひき船使用料	約650万円
総額	約2,600万円

【図5】2017年度クルーズ船寄港に伴う小樽市への港湾使用料収入

小樽港の優位性

小樽港は比較的静穏な風浪条件で、天候に左右されにくい港として船社にとって安心感があります。

港と中心部が近く街なかへのアクセスが良いことも小樽港の大きな優位性です。第3号ふ頭から下船すると目の前には運河があり、その先には観光エリアが広がります。ほかの港ではまちの中心部までバスで移動しなければなら

ところも少なくありません。また、新鮮な海の幸だけではなく果物やスイーツ、酒、ワインなど多様な飲食が楽しめることも魅力です。空港アクセスが良いことも優位性です。「フライ&クルーズ」が初めて小樽に選ばれたのは新千歳空港とJRで約60分で結ばれるアークセスの良さが理由でした。

まちの財産「みなと」を活かし、さらなるクルーズ船の誘致に

地域挙げて歓迎ムード創出を

船会社が寄港地を決める際に重視しているのが、乗船客の寄港地に対する満足度です。たとえ港とまちが近く、空港アクセスが良くても、寄港地の市民から歓迎されていないと感じると、徐々に寄港地に選ばれなくなってしまうかもしれません。また、寄港地に選ば

れても、小樽を素通りするようなツアーが組まれるかもしれません。

もっと私たち市民や企業、商店街など地域を挙げて歓迎ムードを盛り上げていく必要があるのではないのでしょうか。

また、訪れた外国人乗船客が安心してまち歩きができるよう、外国語対応の充実や、農水産資源が豊富な後志を楽しんでもらうためのアグリツーリズムなど、充実したオプショナルツアーの提案も満足度を高める一つであると思います。

第3号ふ頭基部の賑わいづくりに向けて

当所港湾振興プロジェクトでは、観光エリアとまちの中心部が近接し、クルーズ船が多く入港する第3号ふ頭が小樽観光の新たな拠点になると考え、「港を巷に」をキーワードに第3号ふ頭基に「にぎわいづくり」を目指しています。国では、近年増加している日本へのクルーズ船寄港に対応するため、2016年に港湾法の一部を改正しました。この中で、港湾管理者が一定の条件のもと、市民団体やNPO等を「港湾協力団体」に指定することができ、「港

湾協力団体」は港湾の占用許可手続きが簡略化されるなど、官民連携による港を中心としたにぎわい創出を促進しています。現在、港湾振興プロジェクトでは、「港湾協力団体」となりうる組織の検討と、「みなとオアシス」制度を活用して第3号ふ頭基部で市民や観光客が交流するにぎわいづくりを検討しています。第3号ふ頭基部の恒常的なにぎわいは、クルーズ船歓迎ムードの創出につながると考えています。

今後も増加が見込まれるクルーズ人口。そして、クルーズ船寄港地として実績と優位性を持つ小樽港。クルーズ船は、様々な経済的な効果を生むだけでなく、市民との交流やクルーズ船客を通じた小樽の魅力の世界への発信など、小樽の振興に大きな役割を果たすものと考えています。

港があることは、まちにとって大きな財産です。人口の減少でまちの活気が失われまいよう、小樽の財産「みなと」を拠点としたにぎわいづくりを考えてみませんか？

その重要な一つがクルーズ船の誘致であり歓迎体制の充実、たとえてい

2018年9月以降の小樽港クルーズ船寄港スケジュール

船名	総トン数	寄港日	停泊ふ頭
ダイヤモンド・プリンセス	115,906	9月1日(土) 入8:00 出18:00	勝納ふ頭
にっぽん丸	22,472	9月3日(月) 入10:00 出18:30	第3号ふ頭
にっぽん丸	22,472	9月6日(木) 入11:30 出18:30	第3号ふ頭
にっぽん丸	22,472	9月9日(日) 入11:30 出18:30	第3号ふ頭
にっぽん丸	22,472	9月12日(水) 入11:30 見送なし	第3号ふ頭
ばしふいっくびいなす	26,594	9月17日(月) 入8:00 出22:00	第3号ふ頭
セレブリティ・ミレニアム	90,963	9月26日(水) 入7:00 出18:00	勝納ふ頭
ダイヤモンド・プリンセス	115,906	9月30日(日) 入8:00 出18:00	勝納ふ頭
ノルウェー・ジュエル	93,502	10月2日(火) 入8:00 出18:00	勝納ふ頭

